

市長記者会見記録

日時：2014年2月17日（月）午後2時～午後2時49分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：川崎市知的財産交流会の成果について（経済労働局）

<内容>

司会： ただいまより定例の市長記者会見を始めさせていただきます。

本日の議題は、「知的財産交流会の成果について」となっております。なお、本件につきましては記者会見終了後、別途、記者レクをさせていただきます。

それでは、まず市長から本件の概要、本日ご出席いただきました皆様のご紹介をお願いいたします。市長、お願いいたします。

市長： 皆さん、こんにちは。

本日は、本市が産業振興の重点施策として進めております、「川崎市知的財産交流会」を通じて、市内中小企業であるマイスが、日産自動車の開放特許を活用し、新製品を開発したことについてご報告をいたします。

本市では、平成19年度より、大企業が保有する開放特許等の知的財産を中小企業に移転し、中小企業の新製品開発などを支援する「知的財産交流会」を継続的に実施しております。これまで富士通、NEC、パイオニアと市内中小企業の間で16件のマッチングの成果が生まれておりまして、これが17件目となるわけでありますけれども、日産自動車の特許を活用したのは初めてとなります。

大企業と中小企業との間で、知的財産の移転は難しいと言われていた中で、このように川崎から数多くの成果が生まれ、最近では特許庁が本市の知的財産交流会の取組に着目しまして、PRをしていただいたこともあり、「川崎モデル」の特許流通支援として、全国から注目されるようになったことは大変喜ばしく思っております。そして、これからの展開にますます期待が膨らむところでございます。

この知的財産交流会は、単なるマッチングの機会を提供するだけでなく、その後の製品化・事業化、販路開拓まで一貫して支援することを特徴としております。今後も川崎市産業振興財団など関係機関と連携し、きめ細やかなコーディネート支援を行って、多くの具体的な成果を皆様の前で報告できるように、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

それでは本日、日産自動車株式会社テクノロジービジネス部部長、岩田耕一（いわた

こういち)様、株式会社マイス代表取締役、酒井高雄(さかいたかお)様にご出席をいただいております。今回、開発した製品の内容、ここに至るまでの経過、今後の計画などについて、それぞれのお立場でお話をいただきます。

それでは、岩田部長、酒井社長、よろしくお願いいたします。

司会： それでは、ご挨拶をいただきたいと存じます。まず日産自動車株式会社テクノロジービジネス部部长、岩田耕一様、よろしくお願いいたします。

日産自動車株式会社テクノロジービジネス部部长 岩田耕一様(以下「岩田部長」)：

ただいまご紹介いただきました日産自動車の岩田です。

私ども日産自動車では、従来から当社で開発した特許技術やノウハウなどを社内での利用のみならず、社外で広くご利用いただく取組を通して、技術の発展に寄与する活動を進めております。例えば、高級車の内装用に開発した合成皮革を家具などのインテリアにご利用いただいております。また、車両のボディー塗装に使用している、傷を自己修復する塗装がございますけれども、これを携帯電話やスピーカーなどの塗装に活用していただいております。

あるいはナビゲーションシステムなどの車載電装品のソフトウェアのバグを開発段階で、短時間に発見するソースコードの解析技術を世界的なITコンサルタント企業に外販するなど、様々な実績を上げてまいりました。

川崎市様の知的財産交流会には、私どもは平成22年度から参加させていただいておりますが、おかげさまで今回、初めて地元企業様の事業化に貢献できる運びとなり、大変感謝しております。

今回ご紹介する「部品定数供給装置」の技術は工場での生産ラインにおきまして、生産車両ごとに必要となる適切なボルトやナットなどを自動的に供給するという技術です。日産で独自につくり上げたものでございます。

複数の車種が混流する生産ラインで、車種別に異なる適切なボルト・ナット数をつかむというのは、熟練した作業員にとっても大変難しいものです。多くの場合、1回で適切な数をとることができず、複数回部品をつかむことにより、作業時間が長くなり、生産効率の面でネックとなることになりました。

今回の技術はこうした問題を解決するために、現場のエンジニアの工夫によって生まれたものです。自動車関連のラインに限らず、幅広い製造業で応用可能なため、川崎市様をはじめ、複数の知財マッチング事業を通してパートナー企業を募集しております。そして今回、同席していただいておりますマイス様へのライセンス供与が実現いたしました。

マイス様は、規模は小さいながらも技術力に優れた優秀な企業です。我々の部品定数供給装置の構造を最適化し、コスト削減と動作の信頼性をより高めていただいて、様々な業種への簡易配備を容易にする、外部コントローラーの追加など、より一層競争力の高い装置として短期間に改良を施していただきました。

マイス様のこうしたご努力により、素晴らしい製品となりましたこと、大変感謝しております。また、このように素晴らしい会社とのコラボレーションを仲介していただきました川崎市経済労働局、並びに川崎市産業振興財団の皆様へも、改めて感謝申し上げます。

私ども日産自動車では、地域に根差した元気なものづくり中小企業を技術面からサポートすることを通して、より豊かな地域社会の発展に貢献していきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

司会： ありがとうございました。

続きまして、株式会社マイス代表取締役、酒井高雄様、よろしく願いいたします。

株式会社マイス代表取締役 酒井高雄様（以下「酒井代表取締役」）： 株式会社マイスの酒井です。どうぞよろしくお願い致します。

弊社は、1991年3月に高津区で創業いたしました。社名のマイスは、今はやりのビジネストラベルの造語ではなく、創業者、私も含めて2人がねずみ年であるということで、マウスの複数形で、MICE、マイスとしました。事業内容はオーダーメイドの生産設備の開発・設計・製造で、おかげさまで二十数年を経過いたしました。

弊社は大手光学機メーカーに在職した経験を生かし、画像処理等を使用した様々な検査装置や、組立装置などを得意としています。ユーザーから依頼された案件に対し、機械・電気・ソフトの設計から組み立て・設置まで、一貫して自社内で行い、部材の加工や部品の購入以外はほとんど外注に依存しないという、そういうところが大きな特徴で、どのような案件に対しても、細部にわたりユーザーの声を取り入れ、完結できるという点は同業他社で対応できるところは少ないと思われれます。

これまで手がけてきた主な装置としては、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどに使用されている水晶振動子の製造装置や、高い信頼性が求められる産業用スイッチの組立装置や、検査装置、また微量の粉体を高精度に計量、充填する装置など、業種・業界を問わず、多種多様であります。

会社設立当初は、自社製品の開発を目指しておりましたが、試作を繰り返すも、なかなか実用化に結びつかず、資金も半年で底を尽き、断念せざるを得ませんでした。

本日こうして、念願の自社製品を発表することができて、大変うれしく思っております。

今回、日産自動車様の特許技術を活用して開発した「部品定数供給装置」は自動車などの生産ラインで、ボルトやねじを必要な数だけ作業者に供給することができる装置です。ボルトの数を任意に変更することが可能で、作業者がボルトを数える手間を省き、作業に集中することで生産の効率を図ることができます。装置の仕組みや回転盤の磁石でボルトを拾い上げ、正確な数を供給するシンプルな構造により、省スペース化と、低価格を実現しました。

今後の事業展開といたしましては、今年4月に販売を開始する計画で、価格は1台当たり税別で28万円を予定しております。日産自動車様をはじめとする、自動車メーカーのほか、バス、トラック、建設機械や農業機械等の業界を中心に営業活動を進め、国内だけでなく海外市場も見据えております。

ちなみに、一応つけました商品名なんですが、私が勝手につけましたが、「MINK」、「MI」はマイスのMI、日産自動車さんのN、川崎市のK、これを合わせて「MINK」ミンクと名づけまして、これが通るかどうかなかなかわかりませんが、一応このように決めました。

なお、この製品の開発に当たりましては、川崎市産業振興財団の知的財産コーディネーターである西谷様に大変お世話になりました。西谷様とは古くからお付き合いがあり、既に弊社の事業内容や技術をよくご理解いただいております。最初に西谷様から、日産自動車様の特許技術をご紹介いただき、昨年7月に開催された川崎市知的財産交流会で、日産自動車の方とお会いし、西谷さんとともに、製品化の検討を始めました。

その後、日産自動車様との間で実現可能性についての情報交換を重ね、昨年12月にライセンス契約の締結に至りました。ことし1月に第1号試作機が完成し、数度の改良を加え、製品化を実現することができました。ここまでご支援いただいた西谷様をはじめ、川崎市役所や川崎市産業振興財団の関係者の皆様に、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

司会： ありがとうございます。

続きまして、デモ機の実演をお願いいたします。ご準備のほう、よろしく願いいたします。

(実 演)

司会： それではすみません、ここで記念撮影を行いたいと思いますので、市長、そ

れから関係者の皆様、機械の周りへ集まっていただくような形でお願いします。

(写真撮影)

《質疑》

司会： それでは、引き続きまして質疑応答になります。よろしく申し上げます。市長、こちらのほうに。

では、幹事社さん、お願いいたします。

幹事社： よろしく申し上げます。

すみません、日産の方かマイスの方かあれですが、今回のこの装置で、作業の効率化と、省スペース化と低価格化というのが具体的にどのくらいなのかというのが、もし数字で例えば何割とか、お示しできれば教えていただきたいのと、あと、この技術というのは、今、日産の生産ラインで実際に使われているのかとか、現状を教えてください。

岩田部長： まず、私ども日産の現場で使われているかということですが、現在、栃木工場、横浜工場、追浜工場等で、都合50台ぐらい採用しております。

あと、作業の効率性なんですけれども、ちょっと定性的な数字というのは今、きちんと把握しておりませんが、もともとこの装置をつくったきっかけが、今、車両の生産ライン、混流生産になっておりますので、今までであれば、A車であればA車だけが流れていたというのが、A車、B車、C車と、3種類、4種類の車が流れている。そうすると、使うボルトも3本だったり、5本だったり、7本だったり、それが違うと。

そうすると、ベテランの作業員でも、一発でこの必要なボルトをつかむというのが非常に難しいと。数が足りない、また取りに行く。多過ぎると返しに行くというようなことが発生して、そこの面が一発で、手を出すだけで次の車に必要なボルトだったり、ナットだったりがあるというところで、これは現場の作業員から非常にものすごく作業効率がよくなったということで、好評いただいて、既にもう数十台採用して、これからも海外の工場を含めて展開していこうと考えております。

酒井代表取締役： 一般的なボルトの供給装置というのは、M6、6ミリまでのサイズが一般的なんです。これの8ミリ以上該当するものとなると、150万円ぐらいが一般的に売られているので、金額的にはかなりリーズナブルな価格になっているだろうと思います。

あと、省スペースということでは、日産自動車様のものよりも、電気系が全部この中に組み込まれているので、投影面積当たりのところでは非常に省スペースになって、

別置きになっていないのと、またあと一部省いたのは価格のところだみたいな、面倒くさいコントローラー、面倒くさいという言い方もなんでね、ちょっと説明を補足してもらいますが、コントローラー、いい？

これ自体が何点か設定できるようになっているんですが、それとは別にまた別のものを設定する場合、このコントローラーを接続したことによって、さらにこのバリア上を広げることができる。これが不足すると、価格が高くなるので、これは10台でも20台でも1台で済むように、ここは分離してあるということで、また低価格も実現しているということです。

幹事社： 今後はこのマイスさんの機械、装置を全部使うというか、置きかえるというイメージになるでしょうか。それとも今使っているもので……。

岩田部長： マイスさんの価格と品質によりますけれども、有力なベンダーさん候補になると思います。現在のところ、内製品で、手づくりでつくっているんですけども、それだけですと、やはりスケールメリットが出ないので、コストを下げるのが厳しいとか、あとどうしても機械ものですので、メンテナンスが必要になるので、メンテナンスの手払いなんかできないということで、技術的にもそういったメンテの面でも、信頼できるパートナーさんを探していて、マイスさんに今回こういった製品をつくっていただいたと。これに満足すれば、当然有力なベンダーさん、パートナーさんになるというふうに考えております。

幹事社： まだ決まってははいないんですね。

岩田部長： そうですね。はい。

幹事社： わかりました。ありがとうございます。

では、各社お願いします。

市長： どうぞ。

記者： 岩田さん、混流ということは、例えばマーチが流れていたり、別の車が流れてきたりすると思うんですけど、もう1台ずつばらばらで来たりするんですか、それとも10台ぐらいずつ、色々なものが1日の間に流れるって、どういうイメージなんですか、今、生産ラインというのは。

岩田部長： 今、どうなっていますかね。1台1台、待ってばらばらか、何種類か来て、また何種類か来るという形になっているか、ちょっとそこら辺……。

日産自動車株式会社生産事業本部 斉藤主担（以下「斉藤主担」）： ばらばらです。

岩田部長： ばらばらですか。じゃ、もう完全に1台ずつ。

斉藤主担： はい。

岩田部長： ばらばらだそうです。

記者： もう一つ、そうすると、言われてしまえば、発明はそういうものかもしれませんが、要するに磁石でくっつけて、センサーで確認すると。わりと簡単な仕組みのようにも見えるんですけども。

岩田部長： こちらのものづくり、最後苦労されたミスさんからもおありかもしれませんが、ある程度小さいビスのようなものと、簡単なんですけど、このレベルのボルトになりますと、ギザギザも大きくなりますし、ボルト同士が引っかかるというような問題もありまして、そうしたことも解決して、きちんとした供給定数がとれるというのは、それなりの設計上の工夫がございまして、原理は、やっていることは簡単そうに見えますけれども、このサイズのもの引っかからないように定数どりができるところには、様々な設計上の工夫もございます。

記者： じゃ、今まで日産の技術者さんが手づくりで50台ほどあったものは、こちらのほうがより便利であるという。

岩田部長： より商品化、そういった洗練はされております。

記者： すみません、ミスさん、1つ。そういうことで、この商品のポイントというか、多分仕組みは簡単なんだろうけれども、苦労された点とか、工夫されたポイントというのはどこにありますか。今、大きなボルトでも確実に引っかけられるというようなことがあったんですけども、実用新案をもとにして、これを商品化するとか、こういう製品にする上での一番苦労なところはどこになりますかね。

酒井代表取締役： まだそんなに一番は苦労していませんね。

記者： あ、していない。

酒井代表取締役： ええ。基本的にはもう日産さんのものですから、若干のアレンジがどうなのか、そこまで我々の実力が出ているとは言いがたいところで、まだ実際に世間に出していくのは、もう少し練り込んだというか、もう一段上のもので勝負しなきゃいけないかなとは思っております。

記者： ただ、大型ボルトを150万円ぐらいかかったものを28万円で廉価に、確実にやれるという、製品化はできたということですね。

酒井代表取締役： そうですね。

記者： わかりました。

幹事社： この後のレクで細かい点を詳しく……。

司会： それでは、質疑についてはここで終了させていただきます。関係者の皆様につきましては、レクの準備や、この後のご予定もございますので、ここで退席されま

す。本日はどうもありがとうございました。

《市政一般》

（予算案の市民の反応等について）

司会： では、引き続き市政一般となります。幹事社さん、よろしくお願いします。

幹事社： じゃ、幹事社から2点ほど。1点目はまず、予算案が発表されまして、市民からの反応というのは入っていますかということと、もう一点は教育委員会の仕組みが大きく変わろうとしています、その点で首長の権限が出ることについて、どうお考えになるかの2点をお願いします。

市長： 予算案についての反応というのは、まだ私のところにそんなに多く届いていけるわけではありませので、今回、実質的な議会が始まったところで色々な反応が出てくるのではないかなというふうに思っております。

それから2点目が、教育委員会の話ですけれども、これまでも私、この会で言ってきたかもしれませんが、歓迎している面と、一方で懸念しているというのは、首長が変わるたびに、教育の方向性が変わってしまうようなことがあっては、その教育の安定というか、そういうものに悪影響が出ないような、そういった懸念につながるようにしていかなければならないのではないかなというふうには思っています。

（雪対策について）

幹事社： すみません、1点お願いします。

元住吉駅の東急線の事故、あれはたまたま川崎だったということなんですが、やはり今回の毎週の大雪で、都市部の雪対策の脆弱性がすごく露呈して、今週もまた雪という予報がありまして、本腰で独自に雪対策というか、そういったものって考えていくのでしょうか。

市長： 雪対策に限った話ではありませんけれども、今回大雪によって色々なところで支障が、例えば交通関係、市営バスもそうでありますけれども、今回、私はちょっと改善の余地があるというふうに思いましたのは、やはりより早く情報を市民の皆さんにお届けするというところに、これから改善をしていかなければならないというふうに思っています。昨日も一般市民の方からでありますけれども、私のところに市営バスの交通、どういう状況になっているのかというふうなのが、ホームページでは前日の5時のところで更新がとまっていて、なかなか見られないという、どういう状況になっているのかわからないというふうなお話がありました。これは大変大切な視点で

ありまして、全てがリアルタイムにというふうにはいきませんが、より迅速に情報提供を市民の皆さんにできるようにしていかなければならないなというふうに思っております。

幹事社： ありがとうございます。

記者： 今の話の関連なんですけれども、今回の大雪の市役所としての危機管理体制というものを伺います。市役所の地域防災計画などでは、災害もしくは災害のおそれがある場合には、地域防災、災害計画体制、災害計画本部、それからひどい場合には災害対策本部を立ち上げて、市長が本部長になるという具合になっています。その中には気象とか情報とか、今、市長がまさにおっしゃったような住民への広報という活動も、本部などの活動に含まれています。

そこでお伺いいたしますが、市内にもJRも私鉄もバスも動かなくなりましたし、肝いりだった技術展も途中で中止になりましたし、影響は甚大だったと思います。たまたま週末だったからよかったようなものの、これが平日だったら、ものすごい影響が出たと思います。

市役所として、今回の雪に際して、災害警戒本部であるだとか、災害対策本部といったものを立ち上げて、かつ情報を収集して、市民に広報するといったようなマニュアルに決まっておりのことをちゃんとなさっていたのかどうか、その部分について伺います。

市長： 私の報告が、これから大雪ですという、あるいはこういう警報が出ました、こういう対応になりますというふうな話は受けておりました、そのためのいわゆる危機管理室の体制、あるいは環境局のごみ収集でありますとか、あるいは消防局の対応の人員の構成などというふうなものについては、事前にも報告は受けておりました、その体制で、万全な体制で臨むというふうなことはしっかり完結できたというふうに思っております。

記者： 形が全てではないんですけれども、その対策本部とか、災害警戒部を設けるというのは、情報を1点に集中させて、かつ迅速に動けるような部局が縦割りにならないような、そういうような意味が含まれていると思います。要するに地域防災計画に定められている、そういった体制を各部がやるのは当然ですけれども、そういう体制を実際に組まれて、この週末を乗り切られたのか、それともそういうものは組まなかったのか、どちらなんでしょうか。

市長： 危機管理室のところで情報は一元化して、それはそれぞれの対応をとっております。

記者： ということは災害警戒部とか、そういったものはつくらなかったということですか。

市長： あえて、その対策本部をということですか。いわゆる段階に応じて決められているものというふうなのがあって、それに従ってやっているということでございます。

記者： 従ってということ。ということは、市長のところには逐一、週末も何がどこでどういう状況が起きているというのは、ちゃんと耳に入っていたということですか。

市長： 要は、細かな件で、細かなと言ったら大変語弊がありますけれども、どここの何丁目で転んでしまったとかという、その1件1件がということではありませんけれども、夕方の情報でこうなっているというふうな話は報告を受けておりました。

記者： 例えばなんですけれども、東横線の事故のときに、私は現場近くに行ったりしましたが、夜中の2時、3時でも川崎周辺には帰宅難民のような状態の人たちがあふれていましたし、もちろんバスもタクシーも動かないです。電車も動かないような状態になりました。市民の人たちはこの先、何がどういうふうになれば家に帰れるんだろうということもわからずに、雪の中でぼつねんとしていたと思います。市長がみずからおっしゃったように、情報の発信の仕方にちょっと問題があったかもしれないというお話があったんですが、例えばですけれども、ツイッターであるだとか、市がやっているメールであるだとか、そういったもので情報を逐一発信していくという体制もあったと思いますし、そのためにはやっぱり24時間、誰かがどこかにいて、きちんと情報を吸い上げて、積極的に広報していくということが求められていたと思うんですけれども、そういう体制はやってあったんですか。

市長： 当然のことですけれども、危機管理室の体制も、今回の雪の対応のために増員して、宿直も行っておまして、24時間体制はもちろんのことであります。おっしゃるような新たな提案というような、例えばツイッターによる、どんどん情報を発信していくべきだとかというお話は、まさに今後の課題としてしっかりと受けとめてやっていきたいなと思っております。

一方で、いわゆる帰宅困難になっている人の対策に対して、ツイッターがどうのこうのではないですよ。ですから、例えばバスがこういう状況になっていますというふうなのは、情報を市民に発信していきますが、それとはまたちょっと事案がちょっと違うような気がします。

記者： もちろんそうですけれども、例えばですけれども、震災のときにあったように、帰れなくなった人たちのために、市の施設を一部、朝までいていいですよと開放

してあげるだとか、本当にあの週末はタクシーがつかまらなかったですので、例えば震災時でやっているような対策ということとかもあってもいいんじゃないかと思えますし、川崎市は政令指定都市なので、市道に加えて県道と国道のほとんども市が管理しています。だから、例えばどうしても優先して動かさないようなところには、重機で除雪をするであるだとか、そういう体制が、雪国だとそうなんですけれども、そういうような迅速な体制があってもしかるべきなんじゃないかと思うんですが。

市長： ご指摘のところ、もう一回私もしっかりと検証したいというふうに思っています。こういった経験を今週もまた雪ということの予報も出ていますので、そういうところに生かせる部分は生かしていきたいなというふうに思っております。

記者： わかりました。

市長： どうぞ。

(行財政改革プラン・総合計画について)

記者： 行財政改革プランが出ていましたけれども、阿部前市長でつくられたものと、あまり変わらないような。ただそれが、向こう2年間続くと。それは総合計画が向こう2年間続くということだったんですけれども、そうすると、市長任期半分、前の市長がつくったプランで動くわけで、そこはやはりスピード感ということで、例えば骨子だけでも前倒しするとか、理想はその総合計画でも前倒しすべきだと、行財政プランもそうだと思うんですが、その辺、どうでしょう。前倒しとかするお考えとかございませんでしょうか。

市長： 総合計画ができる前の段階については、施政方針などと同じように、それぞれの単位でやっていくということでありますので、見直す必然性があれば、それは機動的にやっていきたいというふうには思っておりますけれども。

記者： 阿部前市長は、たしか就任から10カ月ぐらいで、財政危機宣言を出されて、1年で行革的な予算も組んだわけですから、それは確かに総合企画局もつくったばかりだと思うんですけれども、新市長がかわったということであれば、やはりそういった総合計画の早急な手直し、行革プランにしても手直しが必要だと思うんですが、そこはどうですか。

市長： 総合計画については、これ、繰り返しの話になりますが、2年後をめどにと。それからあとは単年度の施政方針などで、それはやっていきますよということでありますので、このまま何もせず、野ざらしにしていくわけではなく、各年度のことでありますので、そういった意味では非常に機動的なものになるのではないかなと

いうふうには思っております。

記者： 最後、1つだけ、すみません。行革プランの中で、市職員、保育所なんかも、そこを減らしていくということが麗々しく書いてあるわけですけど、今後例えば東京都が保育士増員を間違いなくしてくると。その中で保育士が奪い合いになる中で、単純に市職員を減らすということが質の向上になるのか。それは働く側にとってみれば、市職員なり共済年金つくものの方がいいわけで、例えば指定管理者、一番待遇が悪いというところと派遣になるわけですけども、そういった中で、じゃ、保育所に働く職員の数を減らしたことがすばらしい的な、もう要するにお金は出すところは出す、めり張りは出すというふうには、前の市長のようにそこそこでやれというところへ変わっているわけですから、そこら辺の行革の考え方もやはり是正していかないと、実状についていけなくなるのではないかと思います。その辺はどうでしょうか。

市長： 保育園のあり方については、要するに公立の保育園と、民間の保育園という考え方というのを今回、しっかりと整理していると思います。公立の保育園の機能というのは、まさにこれから民間のところの質の向上などに、これから支援の体制でやっていくわけですから、そういった公と民のしっかりとしたすみ分けというふうなのは、私はこれからやっていかなければならないし、そうあらねばならないというふうに思っています。基本的には民間でできることは民間でというふうなのが、私の基本的な考え方でありますので。

記者： ありがとうございました。

記者： 1つ前の質問に戻りますけれども、総合計画について、私もちょっと疑問があって伺います。例えばそのスピード感についてなんですけれども、2年後に新しい市の骨組みといいますか、大きな枠組みを打ち出しますよという話ですよ。ただ、例えば民間の企業で社長になりましたと。今、任期1年の企業もありますけれども、多くは2年で1期だと。2年後というと、1期が終わってしまうわけですね。福田市政にとっても半分終わった時点で、ようやくその全体像が見えてくるというのは、幾ら何でも遅いんじゃないかと。なぜこの1年でできないのかという違和感を私は思うんですけれども。くどいようなんですけれども。

市長： なるほど。どう見られるかというのは、確かに2年後では遅いんじゃないかというふうなお考えもあるかとは思いますが、しっかりとこれからの市民ニーズというふうなのを計画的にやっていく、かつ、しっかりと市民とともに作り上げていくという意味では、若干じっくり時間をかけたいというふうに思っております。職員全体で、あるいは市民全体で作り上げていく川崎の姿というものをしっかりと

時間をかけて計画を立てていきたいというふうに思っています。

その意味で、大きな総合計画ということは2年後ということになりますけれども、繰り返しになりますが、単年度の形で、しっかりと市民の皆さんにこういうふうな方向で、こういう改革をやっているんだということが見えるように、それはしていきたいなというふうに思っています。

記者： それは……。ごめんなさい、もう一つ。くどいようですが、いつの間に、あれ、そうになっていたのかなど。私ちょっと見逃していたんですけども、総合計画づくりは2年先だよという話は市長のお考え、それとも例えば先ほどの総合企画局の事務方のほうから、これぐらい時間がかかりますよという話があって、どういう判断なんでしょう。あくまで福田市長の考えで2年かけてつくりましょうということなんでしょうか。

市長： 最終的にはそうですね。私です。

(副市長人事について)

記者： ちょっと気が早いあれですけども、今議会で、追加議案として副市長の人事案件が出てくると思うんですが、こちらについては今、市長のおっしゃられる範囲で、どういう方をとというのは……。

市長： ちょっと気が早いんじゃないんですかね。

記者： どのような感じでしょうか。

市長： これまでも申し上げていたとおりなんですが、適材適所で。

記者： 3月末で任期満了を迎えられる三浦さんの後継というか、次ということなんですが、三浦さんと同じような仕事をされるようなイメージ。それとも全く三浦さんのイメージを変えるようなイメージの方をお考えなんでしょうか。

市長： 何とも、それはちょっと今の時点で答えづらいですね。すみません。

記者： そうですか、わかりました。

(区民車座集会について)

記者： ではもう一つすみません、ちょっと違う質問ですけども、今回の予算の中で、わずか8万2,000円だけですけれども、車座集会について予算をつけておられます。これは、車座集会は前から色々な議論というか、話はあると思うんですけども、やはりちょっと議会軽視だというような意見も中には言われる方がいらっしやって、区民会議もあって、さらにまた車座集会、そこにわずかでも予算をつけられると

いうことに関して、もしかしたら議会でも質問が出るかもわかりませんが、市長はどういうようなお考えだというのをちょっと改めて。

市長： 車座集会在議会被軽視というふうなご批判がどうしてそうなるのかというのが、ちょっと私には理解できないなと思います。二元代表のそれぞれがどのような市民意見を広聴するのかというふうなのは、色々な手段があるとは思いますが、これまで語ってきた車座集会的意義というふうなものをご理解いただきたいというふうには思っています。

記者： ありがとうございます。

(給食アンケートについて)

記者： それですが、先週、給食のアンケートの結果が出ていましたよね。改めて保護者から8割ぐらいが給食、けれども子どもの側は必ずしもそうではないような、弁当5割、給食3割ぐらいの数字だったと思います。これについてどのように受けとめられているのかと、今回の調査の結果によって何か考えが変わった点とかというのはおありになりますか。

市長： いや、大変保護者の方からのニーズがやはり高いということが、今回のアンケートで改めて数字の上でわかったなというふうに思います。それと、僕はびっくりしたのが、やはりアンケートの回収率が非常に高かったというふうなのが、ちょっとこの種のアンケートでは珍しいほどの高い回収率ではなかったかというふうに思います。そういった意味でも、改めて必要性というか、特に保護者の求めている声というのが、これほど大きいものかということも改めて実感した次第です。

記者： 子どもたちの声については。

市長： 子どもたちもそうですね。学校訪問をしたときも、色々な声がございました。例えば中学校1年生ぐらいだと、小学校の延長で食べなれているので、比較的高いけど、もう3年生ぐらいになっちゃうと、大分弁当になっちゃっているから、もう弁当でいいじゃんという感覚になるというふうなのが、そういう様々な意見があるなということで、それはしっかりと受けとめさせていただきたいというふうに思っています。

記者： じゃ、関連しまして、その同じアンケートで、デリバリー方式の参考にもなると言われるランチサービス、これはもう保護者も中1生徒も、1%支持率があったんですけども、これについてはどのように受けとめられましたか。

市長： これまでのやはり取組で、実際利用されている方というふうなのが非常に少ないということを鑑みると、やはりそういう結果かという、何というか、納得の、私

の感覚から言うと、なるほどという納得の数字ではありましたね。

記者： わかりました。

(保育所について)

記者： じゃ、すみません。保育所の関係なんですけれども、2月7日に認可保育所の一次不承諾者に通知が出たと思うんですが、たしか2,760人でしたか、2,800人近く、一次不承諾の数としては過去最大になったと思うんですけど、これについてどうお考えで、どのようにとらえるかというか、原因はどのように考えていますか。

市長： ご紹介いただきましたように、大変多い数でありますけれども、今回、予算発表をさせていただいたように、枠というものを今回、大きくつくっていますので、これから各区で今やっていただいておりますけれども、しっかりとマッチングということをしていくということが大変重要だなと思っています。

記者： それだけ増えたというのは、やっぱり希望者が増えたということですかね。

市長： そうですね。

記者： そのマッチングというのは、多分地域的なずれとか、辞退者を埋める、かつやっぱり認可外に対してのあっせんというところですか。

市長： はい、そうですね。これから区の実組で、この前、幸区長から見せてもらいましたけれども、認可外保育の冊子みたいなものを緊急につくって、それをハンドブックのような形で、緊急につくったというふうに書いてありまして、こういったものがなかなかなかったというか、今までなかったものというのを、しっかりと保護者の人たちにそのことを知ってもらおうという取組も始まっておりまして、それぞれの区で、それぞれのやり方で全力を挙げていただいているので、その取組をしっかりと注視していきたいというふうに思っています。

記者： ただ、毎年1,300から1,500増やしていながら、前年はたしか減ったと思うんですけど、今回、一気に百何十人増えたということであると、待機児童ゼロに対してのハードルも高くなったと思うんですが、その辺はどうですか。

市長： ハードルが高くなるというのは、これ、しょうがない話でありまして、それだけ親御さんたちのニーズが高いことのあらわれだと思いますので、そのことにしっかりとお答えできるような形で進めてまいりたいというふうに思っています。

記者： ありがとうございます。

(児童相談所職員の不祥事について)

幹事社： 最後に1点だけ。前回の会見で児童相談所の職員の逮捕を受けて、体制見直しを検討するというふうにおっしゃっていましたが、それから2週間たちまして、そこら辺の検討状況というのは……。

市長： すみません、ちょっとまだ私のところに情報が上がってきていないので、それは改めて確認して、またお知らせしたいと思います。

幹事社： わかりました。

他はいかがでしょうか。

(政務担当秘書の設置について)

記者： 1個だけ。すみません、横浜市長さんが、ちょっと名前は正確じゃないかもしれないかもしれませんが、政策秘書というか、特別秘書みたいなものを置く考えを述べられています。先ほどの人事もまだ気が早いでしょうということだったんですけれども、福田市長としては、新年度にも秘書部を拡充しようとか、機能を強化しようということだと思うんですが、この間の話では。例えばそういった特別職の政務担当の秘書みたいなものを置くというようなことは現時点でご検討はなさっていますでしょうか。

市長： 現時点ではその検討はしておりません。一方で、林市長の言われる政務担当という、こういったものというのは、大変重要な、かつ必要ではあるなというふうには思っておりますけれども、現時点で具体的に検討しているということではありません。

記者： わかりました。

司会： それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了いたします。どうもありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務局市民情報室報道担当

電話番号：044(200)2355